

# 次代を担ういちご生産者の 環境制御技術等の習得による生産性向上



計画期間：令和4～5年度

対象者：栽培を開始して1～3年のいちご生産者8人

（管内いちご生産者及びいちご生産法人）

担当チーム員：◎小野寺康子、漆山喜信、大内信博、嶋田圭

# 管内いちご生産者 (令和元年以降)

## 背景

60代後半から  
70代前半の生産者と  
その後継者



栽培に関すること  
環境制御等に関することを  
学ぶ勉強会が望まれている

スムーズな世代  
交代・いちご  
栽培継承

新規生産者の  
空きハウス活用

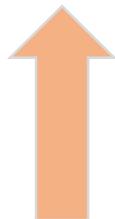
県外・地区外  
からの  
新規就農者

いちごの栽培  
を学ぶ機会が  
少ない

生産者間の繋  
がりや栽培の  
悩み等を相談  
できる機会が  
少ない

法人育成による  
新規就農者

増加



法人への雇用  
就農者

増加



# 課題の目標

- I 基本的な栽培知識や環境制御技術等の習得により、収量が向上する。
- II 生産者間で自由に意見交換ができる関係が構築され、自主的に情報収集できるようになる。



# 活動事項

I いちごの生育に合わせた環境制御  
技術等の習得による**収量向上**支援  
(ハウス内生産ほの管理)

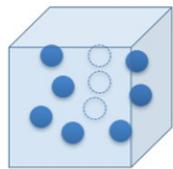
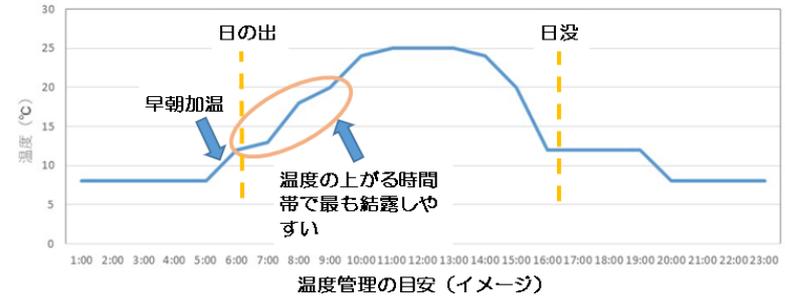
II 勉強会開催による栽培技術向上支援、  
**生産者間交流**支援  
(育苗及び、勉強会等の開催)

# 活動事項 1-2 普及センターいちご通信 にて管理技術を確認（環境制御等）

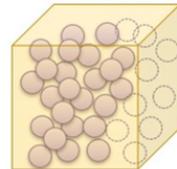
12月号

## 2 温度管理は果実の温度変化を緩やかにすることを意識して ～果実に結露させない～

温度管理の主目的は光合成による株の生育と果実の肥大を一定の速さで進めることです。冬のハウスは締め切っていますから、何もしないと日の出後に温度が急激に上がります。急激に温度が上がると、夜間のハウス温度と同じ温度になっている、冷たい果実の表面には水蒸気の一部が凝縮して結露してしまいます。寒い日に暖かいハウスの中に眼鏡をかけたまま入ると曇る現象と同じです。この結露を防ぐために、日の出前にあらかじめ果実の温度を上げておくために、“早朝加温”を行うようにします。もちろん、いち早く光合成を始めるためでもあります。



左：湿度70%  
温度15°C



右：湿度70%  
温度30°C

同じ湿度でも、含まれる水蒸気量は温度によって異なります。

温度が低いほど少ない水蒸気量しか含めず、温度が上がると含める水蒸気が増えます。

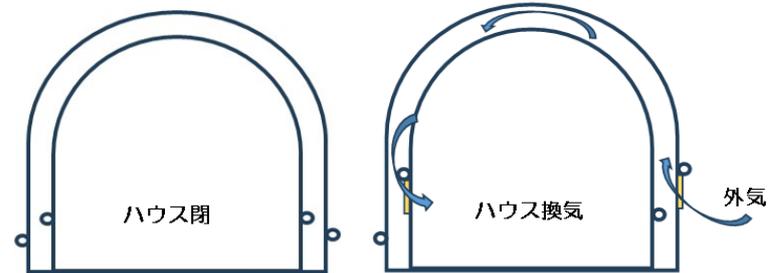


図 パイプハウスの換気例：左：ハウス閉 右：ハウス換気 ワンクッション換気  
外気を直接中に入れず、ハウス内を回してから換気する方法。ハウス内が高温の時、外サイドを少し空け、反対側の内張をあけて、外の空気を温めてからハウス内に入れる。上記例は、東西ハウスの北外サイドと南内張を開けた換気方法。

## 3 湿度管理と目安について

各生産者により、生育の遅れが目立ち、ばらつきが大きかった。着果後の早朝加温を重点的にすすめた。  
→当初予定の時期に収穫できた。（8人中3人）

# 活動事項 1-1 令和5年末の振り返り

年内収量の確認。予定の収穫開始時期・出荷量となったか？育苗開始時期、ハウスの保温開始時期等は適切だったかを検討した。課題があれば、対象者と解決策を考えた。

→対象者自ら次年度の計画を考えている。

○いちご部会令和5年末実績

年内生産実績 (250 t, 89%\*)

販売実績 (664,592千円、  
110%\*) ※ ( ) 内%は対前年比



## 活動事項 II-1 勉強会、講習会の開催

- ・いちご新規生産者・後継者向け勉強会を4回開催  
(開催日 6/29、7/20、8/18、11/9)
- ・内容 第1回：装置の仕組みを知ろう  
第2回：pHとEC計の調整と測定、モニタリング  
第3回：いちごの花芽分化について  
第4回：IPM防除とアザミウマ対策について
- ・交流、会話ができるように名札を着用、ワークショップ方式での研修、グループワーク等を取り入れた。(参加型の勉強会)
- 参加者は対象者を含め、第1回62人、第2回69人、第3回46人、第4回51人 基礎的な技術習得ができた。
- 法人からの積極的な参加があった。(株)GRA、(株)一苺一笑、山元いちご農園株式会社、燦燦園等

# 活動事項 II-1 勉強会、講習会の開催

## 第4回いちご新規生産者・後継者向け勉強会



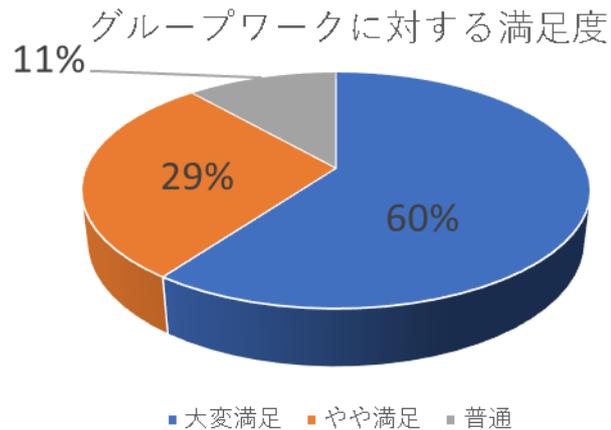
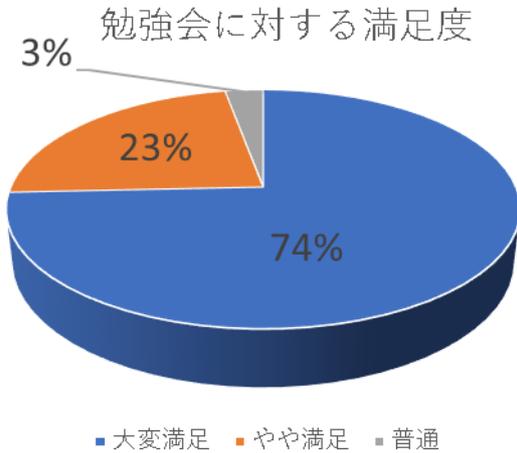
ハウス視察と天敵の観察



グループワークの様子

最も関心の高いテーマで勉強会を開催。  
→グループワークでお互いの考えを聞いた後は、生産者間情報交換のいい機会となっている。

# 活動事項 II-1 勉強会、講習会の開催



## 第4回勉強会 アンケート結果

- 勉強会に対する満足度 以下回答の理由
- ・ IPM防除の中でもアザミウマ対策に最も興味があったため
  - ・ グループワーク検討の有効性がうかがわれた
  - ・ アザミウマについてより詳しく話が聞けた
- グループワークに対する満足度 以下回答の理由
- ・ 多様な意見があり、参考にしたいものがあった
  - ・ 少なめの人数で話が近くで聞いて良かった
  - ・ 防除体系を考えることができて良かった

# 活動事項 II-1 勉強会、講習会の開催

## ○アンケート結果（勉強会全体について）

生産者どうしの情報交換について、日頃生産者どうしの情報交換をしていると回答した生産者16人のうち「いちご新規生産者・後継者向け勉強会」をきっかけに情報交換をするようになったか？

→7人の方は、今回の勉強会をきっかけに情報交換をするようになったと回答。情報交換の内容は主に栽培技術についてが多い。

**<技術習得と交流の目標を達成>**

# 目標に対する課題の評価

## 定量的目標に対する評価

年内収量：令和3年度 100% → 令和4年度 110% ※  
(105%) ※  
→ 令和5年度 93% ※  
(110%) ※

※( )目標値

## 定性的目標に対する評価

I 基本的な栽培知識や環境制御技術等の習得により、収量が向上する。  
→ 技術習得により、収量が見込めるようになった

II 生産者間で自由に意見交換ができる関係が構築され、自主的に情報収集できるようになる。

→ 勉強会での意見交換等から交流関係が構築された

# 今後の活動

## ○6月までの収穫期間を継続して支援

- ・振り返りで整理した課題を解決に向け支援
- ・暖候期に向けた栽培管理支援  
(環境制御等)
- ・病虫害防除管理支援



## ○育苗管理の再構築等

- ・育苗時の適切な肥培管理
- ・夜冷処理の推進と確実な年内収穫開始のための作業スケジュール提案
- ・病虫害防除対策支援